

…◆祝◆財団認可 新春特別号…

連盟会報

発行日：2017(平成29年)1月15日

…◆第48号◆…(P-1)

発行：一般財団法人 日本拔刀道連盟

企画・構成・編集：〈広報部〉

…事務局… T 130-0026

東京都墨田区両国 2-21-5 銀河ダイカンビル802号

Tel:03-3631-5851 FAX:03-3631-5852

輝かしい新年を迎える年頭のご挨拶を申し上げます。

我が連盟は、昨年の暮れに「NPO法人から一般財団法人」へと名前が変わりました。今年は、気持ち新たに飛躍の年となるように、皆さん之力で盛り上げて行きましょう。当連盟の「形・実技」は、捨て身の刀法ではなく「攻撃・攻防」を繰り返す技でもありません。つまり、相手の斬り込みを体をかわして避け相手の攻撃の先手を取って、相手の隙に斬り込む刀法であり我が身を傷つけず相手を一刀のうちに倒す「斬り・突」の刀法で…、正に“眞の拔刀道”であり日本武道の原点であります。

参議院議員 岡田 広
連盟名誉会長



連盟の前途を祝福する“人生開拓”…躍動感溢れる
『日出鳳凰図』江戸中期の奇才…伊藤若冲の《吉祥祝図》写

●尺寸(約) / 94×33cm

常日頃申しておりますが、拔刀道修練に際しは「自己満足・慢心・我執」は修練を阻害する《心の敵》である事を胸中に秘めて、互いに努力し一段と立派な連盟に育てて行こうではありませんか…。

財団代表理事 大江 正男
連盟会長



一般財団法人
日本拔刀道連盟
本部 役員一同



財団理事
連盟副会長
兼広報部長
中島正夫



財団評議員
連教務部長
大塚光男



財団評議員
会計
岡本光正

連財團
中世相評議員
古勝司



財団監事
連監査
佐藤敬子

財団理事
連事務局長
菅野茂

財団評議員
連教務部長
大塚光男

連盟
中北祐嗣



教務
次長
太田丈夫



教務
次長
遠藤仁



教務
部員
藤田久男



教務
部員
境泰雅



公認審判員
NPO法人
日本拔刀道連盟

連盟
金子与翼



事務局員
小林克巳



事務局員
市角壮玄



広報部員
藤原義彦



…協力者…
専属写真家
保泉正夫

公認
準備
委員
大會
安全
管理
者



◆《剣の道と三殺法》◆



一般財団法人認可に伴い、連盟会長から新春挨拶の中で、私達が拔刀道を学び修練するまでの、本連盟の「刀法と心構え」について貴重な教訓を戴いた。インターネットが発達し、国内外に即発信される現代社会で、拔刀道を畠み莫産を日本刀で斬り競技する武道と勘違いされない為にも、ここで本連盟が修練する拔刀道は、日本武道の原点であり「正統抜刀道」として、後世に残す本連盟の姿に触れてみたい。

本連盟の制定刀法は、刀法の原点を「現代剣道・居合道」と同様に、古武道各流派に求めている。従つて各技は、互角の腕を持つ武士同士の「真剣勝負」を想定した刀法の一面である。従つて、制定刀法教本をみると《気攻め・すり上げ・払い・すり足・運び足》等々の言葉が多く出てくるが、仮標を「刀を構えた相手」とみなし、対峙したときの「剣の理合いに基づく『技』であり、相手の動きを事前に察して「先手を取つて」攻撃する事を想定した刀法であることを念頭に修練すると、ただ単に仮標に向かっての試斬ではなく、武道としての「刀法所作」の《心・技》の醍醐味に触れる事が出来る。

■【三殺法】と【先】

▼《剣》を殺すとは：相手の剣を左右に押さえ、巻き、互角の相手と対峙し、真剣勝負或いは試合を行う時：払うなどして、剣の自由を殺す。

▼《技》を殺すとは：相手に技を使わせない様に「先」を取り、隙をみつけて、攻めるなど、対峙した相手に対し、技を施す余地をなくすることである。

▼《氣》を殺すとは：絶えず全身に、氣力を漲らせて「先」の氣力を以て相手の氣を殺す事を言う。

■【先】とは：先という意味は、相手と対峙し剣を交えた時、相手の動きの機先を制することである。

《先》には：「先々の先・先前の先・後先の先」と：《三つの先》がある。

■《先》に対し「後」がある。《後》と言うのは、機先を制しようと出てきところを抑え、逆に勝ちを制することを言う。しかし「理合いと技」理屈は理解出来ても相手と対峙した時の実践は難しく、ここに「修練練度」の「重みと深さ」氣位が生まれてくる。

その歴史と実績が物語る様に日本刀は、日本武士の魂を支えその精神は、日本刀の中に流れおり、現代でも失われる事なく今日に至っている。

刀匠の《鉄と炎と水》との闘い。刀匠が「身を清め真心」を込めて鍛錬した《入魂一刀》の世界に類例のない鍛錬の秘法は、日本歴史の秘宝であり、日本精神の粹であると言つても過言ではないと思料する。

さあ！練習と絆◆絆と連帯》をスローガンに連盟の躍進と自分の為に頑張つて行こうではないか。

■ その歴史と実績が物語る様に日本刀は、日本武士の魂を支えその精神は、日本刀の中にも流れおり、現代でも失われる事なく今日に至っている。

刀匠の《鉄と炎と水》との闘い。刀匠が「身を清め真心」を込めて鍛錬した《入魂一刀》の世界に類例のない鍛錬の秘法は、日本歴史の秘宝であり、日本精神の粹であると言つても過言ではないと思料する。

さあ！練習と絆◆絆と連帯》をスローガンに連盟の躍進と自分の為に頑張つて行こうではないか。

本部 広報部長 中島 正夫

◆編集後記◆

時の流れは実に早い。幾多の“いばらの道”を乗り越え、連盟創立から26年を迎えた。

一般財団法人として、先人達の“意志と情熱”を継ぎ、私達会員一同は、心新たに気持ちで、更なる躍進を歩み続けることをここに誓いたい。

新規会員が増える中、ふと…本連盟の“足跡”を振り返ると…、平成3年4月5日…。拔刀道を日本の武道遺産として、眞の抜刀道の更なる“発展と継承”を標榜し、有志により連盟“新組織結成”の為の『組織運営協議会』が結成された。

思い起こすと、小雨降る…同年《5月12日》…。協議会の呼びかけで《新組織結成発起人会》が東京神田で開催され、全国各地から“30名”的、拔刀道をよくな愛し、修練する志士により本連盟は“創立結成”された。この時点で協議会は《発起人会》に移行吸收され「日本拔刀道連盟」が誕生し活動を開始した。

平成4年(1992年)6月28日。創立1周年『第1回日本拔刀道連盟全国大会』が、現在の連盟総会の場所(当時:桜田小学校→現在:生涯学習センター)体育館で盛大に開催された。本連盟は、先人の意志を継ぎ、連盟会長を中心とした、役員各位の奮闘により、“NPOから一般財團”までに躍進し…、第26回の全国大会を迎える。私達は、互いに修練に励み《正統抜刀道》として後世に伝承して行こうではないか！…。

◆事務局便り◆



事務局長
菅野茂

本連盟は、「創立二十五周年」の節目にこの度、NPO法人から「一般財団法人」に移行いたしました。本年は、第二十六回の全国大会と第二回の東京大会が予定されています。連盟本部は、本年も引き続き、事業計画の中でも公開している様に、充実した多くの講習会と、年5回の本部主催による段位審査会等々、会員が活躍できる場を多く提供出来るよう努力しております。今後とも、一致団結して連盟を盛り上げ、益々発展するようご協力を願い申し上げます。



副会長
中島正夫
広報部長